

## 第1章 要請の背景

要請道路の位置するタンザニア国の北部地域アルーシャ州は、多くの国立公園や自然保護区が集中しており、世界的な野生動物の楽園を形成している。

特に世界遺産に登録されたンゴロンゴロ自然保護区やマニャラ湖国立公園、セレンゲッティ国立公園は、タンザニアの観光の中心地であり、マクユニ～ンゴロンゴロ道路を利用して世界各国より観光客が訪れ、その数も年々増加している。

また、アルーシャ州は、農業生産の盛んな地域であり、小麦や、メイズは全国一の生産高となっているほか、綿、コーヒー、茶等の生産も多く、特にマクユニ～ンゴロンゴロ道路の沿線地域は、農業適地であり一大穀倉地帯を形成している。

しかしながら、アルーシャ州の州都であるアルーシャ市、近接の消費地であるモシやドドマ、ムワンザ、更には大消費地のダルエスサラームまで農産物を出荷するためには、唯一の幹線道路であるマクユニ・ンゴロンゴロ間道路を利用せざるを得ない状況にある。しかし、マクユニ・ンゴロンゴロ間道路は、全国幹線道路網の一部を形成しているものの、砂利道であるばかりか、橋等の道路横断構造物が老朽化や洪水等により破損しているほか、雨期には泥濘化して通行に支障を来している。

このような状態が道路の通年交通の確保を困難にしており、対象地域の農業ポテンシャルや、外貨獲得の重要手段である観光ポテンシャルの有効な活用を妨げ、タンザニア国の経済的発展の阻害要因となっている。

このためタンザニア国政府は、道路整備計画（IRP：Integrated Roads Project）の中で本道路を重要道路と位置づけ、1994年から1996年までIDA資金により環境影響評価を含むF/Sを実施し、1996年11月に我が国に対して事業化のための無償資金協力を要請した。その後タンザニア国政府は、公共事業省の独自予算により1998年より2000年3月まで、本道路の詳細設計（D/D）を実施し、事業化のための準備を行った。